

2020 明治安田生命 J3 リーグ 第5節 vs. **ロアッソ熊本**

7/19 (日) 18:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

岐大通 2020

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いします。

today's guest : **ロアッソ熊本**

2019 J3 16勝9分9敗 勝ち点57: 5位

直近の対決と結果

2018/08/19
J2 - 29節@長良川

岐阜 0-2 熊本

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		ロアッソ熊本	
2020/07/15 J3 - 04節@ヤンマー C阪23 2-0 岐阜		2020/07/15 J3 - 05節@えがおS 熊本 1-0 G阪23	
2020/07/11 J3 - 03節@長良川 岐阜 1-1 讃岐		2020/07/11 J3 - 04節@えがおS 熊本 5-3 C阪23	
2020/07/05 J3 - 02節@Axis 鳥取 2-3 岐阜		2020/07/04 J3 - 02節@夢スタ 今治 0-1 熊本	

2020J3 ■順位表■ 第4節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1 秋田	12p	+9	9	0
2 熊本	12p	+5	10	5
3 鳥取	9p	+3	8	5 AO
4 長野	8p	+3	6	3
5 沼津	7p	0	4	4
6 藤枝	6p	+3	11	8
7 相模原	6p	+1	3	2
8 八戸	6p	-1	4	5
9 今治	5p	+2	4	2 H△
10 岐阜	5p	-1	4	5 --- ---
11 福島	4p	-1	4	5
富山	4p	-1	5	6
鹿児島	4p	-1	5	6
C阪23	4p	-1	5	6 A●
15 G阪23	4p	-2	4	6
16 YS横浜	1p	-5	6	11
讃岐	1p	-5	3	8 H△
18 岩手	1p	-8	2	10

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第6節 vs.ガンバ大阪U-23

7/26 (日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

●やっと、今季初めての有観客試合で開催されたJ3リーグ。我らがFC岐阜は、7/11(土)第3節で讃岐をホームに迎えた。試合を優位に進めながらも、大雨の影響でボールが予想外に止まるため決定機を作れずにいると、守備陣の連携ミスでまさかの失点。その後は、決定機を何度も作るが得点を奪えずに時間が経過したが、試合終盤に#4甲斐健太郎のミドルシュートで同点に追いつく。その後も攻めたてるが決勝点は奪えず、試合は1-1のドローで終わった。そして中3日で迎えた7/15(水)第4節・アウェイC大阪U23戦。岐阜は序盤から試合を優位に進め、何度も決定機をつくるが決めきれないでいると、前半終了直前にまたも守備の緩さから失点。後半にも追加点を許し、0-2で今季初の敗戦を喫してしまった。

この2試合の結果、FC岐阜は順位を一気に落とし、4位から10位に。首位と2位が4連勝で勝ち点12を積み上げており、勝ち点差が7と更に広がってしまった。これまでの試合で、FC岐阜はおおむねボールを支配できているものの、決定力不足と守備の緩さから勝ち点を失っている。選手たちには、危機感と勝利に対する強い執着心をもって貰いたい。そして全34試合で(少なくとも)勝ち点60以上を優勝ラインと想定すると、1試合あたりの勝ち点は1.75だ。現在の岐阜は1試合あたり勝ち点1.25なので、まだ4試合を消化したばかりだが、優勝争いには届かない。J3優勝を掲げるからには、これ以上勝利から遠ざかること、そして連敗などは許されない。今節こそは勝利、そして勝ち点3を獲ることが絶対に必要だ。

さて、今節の対戦相手は、岐阜と共に2008年にJリーグに昇格を決めた“J昇格同期”のロアッソ熊本だ。昨年J3に降格し、1年でのJ2復帰を目指したが5位に終わったチームだが、J3リーグ2年目を戦うにあたり、昨季まで岐阜で指揮を執っていた大木武氏を招聘。そして若手選手主体のチーム作りが奏功して開幕から4連勝。現在は得失点差で2位につけ、J3優勝争いの上位に立っている。J3優勝を目指すFC岐阜とすれば、上位チームとの直接対決でも当然に勝利が求められる。つまり、この試合は第5節にして、J3優勝争いで先頭グループを走るライバルとの“勝ち点6マッチ”だ。また、岐阜の選手の多くは昨季の大木監督を知っており、その感情も含めて、勝利以外の結果は求められていない。熊本での要注意選手は、やはり3得点を挙げている#18高橋利樹だ。有能なフィニッシャーを必要とする“大木サッカー”を攻略するためには、この長身ルーキーFWに仕事をさせないことが何よりも重要だ。また、熊本との通算対戦は岐阜の6勝7分11敗・27得点33失点と負け越し。ホーム戦でも1勝4分6敗・8得点15失点となぜか成績が非常に悪い。前回対戦の2018年8/19(日)第29節・ホーム戦でも、0-2で敗戦している。今節こそは、“J昇格同期”に勝利して雪辱を晴らしたい。熊本県は、2016年熊本地震で地域の象徴である熊本城も含めて甚大な被害を受け、その傷跡も未だに癒えぬまま、今回令和2年7月豪雨によって大きな被害を受け、今後も継続的な支援が必要とされている地域だ。同じ“サッカーファミリー”として今後も支援を続けていく必要があるが、しかし、ピッチ上ではJ3優勝争いをするライバルに掛ける情けは一切ない。そして、ピッチ上では一切手を抜かないことこそが、彼らに対する最大限の敬意のはずだ。中3日での3連戦で非常に厳しいコンディションだが、昨年までの指揮官に“恩返し”をするべく、岐阜の選手たちは大いに奮起してくれるだろう。その活躍に期待したい。

そして僕らFC岐阜サポーターもまた、やれることは限られている中で、選手たちに僕らの気持ちを精一杯の形にして送ろう。試合前後のタオマフ・ゲーフラの掲出(振るのは禁止だ)、試合中の拍手や(声を出さない)身振り等で、選手たちを後押ししよう。シーズン序盤だが、この重要な一戦で確実に勝利を掴み、みんなで(声を出さない)万歳四唱をして、みんなで歓喜を分かち合おう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第3節】岐阜 1-1 讃岐

●大雨だったので、例年通りピッチの除水作業をすると思いきや…やらなかったのはコロナ過の影響なのかな？そして、ならばロングボールでの“縦ポン”かつ個人技で局面を打開すると思いきや、この水びたしのピッチに苦しんだのは、まさかのホーム・岐阜。何度もチャンスでボールが止まってしまう。それでも、岐阜が試合を優勢に運んでいたんだけど…前半終盤のワンプレーで致命的な、GKのクリアミスに続けてDFのクリアミス。今季3失点が、守備を崩されたのではなく、同じ様なクリアミスからであることを、守備陣は猛省していただきたい。後半も、試合は岐阜が優勢だが得点を奪う事ができないまま、ジリジリとした時間は過ぎ…しかし、やっと試合終了間際、DFラインの裏を抜け出した#9高崎寛之が逆サイドに振って、上がってきて#4甲斐健太郎が同点弾！いやー、#9高崎がよく見てたし、CBが上がってきてミドルシュートでの得点なんて何年ぶりかしら？その後も攻め立ててゆく岐阜だが、決勝点を奪えぬまま1-1のドロウ。うーん、追いついて勝ち点1を取り返したというポジティブな考え方もできなくはないが、#4甲斐が語るように勝ち点2を失ったという表現が正しいだろう。J3優勝を目指している今季に関しては、こういった不用意な勝ち点の失いは禁物だ。試合全体としては、優勢に推していただけに、あのワンプレーが本当に悔やまれる試合結果だった。(ささたく)

●まずは、有観客開催にまでこぎ着けることができた。Jリーグ、岐阜フットボールクラブ、その他関係各位の皆様方に最大級の感謝と賛辞を。いろんな制約はあれど、少しずつ日常は取り戻せてきている。

試合のほうは、まあ0を1に出来たから良しと。事故みたいな形で失点しちゃったけど、得点のシーンは高崎がボール収めてから周りがしっかり見えていたなど。まさにポストプレー。そしてそこへ駆け上がってきてシュート決めたカイケン、綺麗な弾道のミドル。あんなシュートの形、ここ数年の我が軍で見たことなかったぞ(笑)。

カマタマさんの守備は粘り強かったなあ。ボールホルダーに2人も3人もチャレンジしに行って、前田や高崎にボールが収まってもなかなか自由にやらせてなかった。望月さんいいチーム作ってるなという印象です。

スタグルでは今シーズンから参加された敷島珈琲店さんが、なんと日の丸弁当(白飯と梅干1つだけ)の販売という画期的な出来事！これでご飯に牛串やコロッকেを載せて食べるということが実現されたのであります。(岐阜の誇り)

●ようやく、やってきました『FC岐阜のある日常』。DAZNで讃岐戦を観戦してた自分ですら、平常心を失くしかけてたんで、現地に参戦してた方々のボルテージの上がりっぷりたるや。想像に難くない、といったところでしょうか？しかし、鳥取戦も含めて「点取られるの、スクランブルばかりやん！」だったのはいただけない。判で押したような失点シーンは昨年以前から目の当たりにしてるんだけど、ソレが今季初の観客入れた試合にも出るのかよ？と。

この試合のピッチコンディションなら『セーフティ・ファースト』は必至。ゴール同様死守しなければならないタスクでした。ええ、GKのことですが、本人も即座に反省の弁を述べてました。初体験のコンディションに戸惑いもあったでしょう。『ホームの利』とは言えないのがツライけど、『ホームの特性』はきっちりと把握して試合に臨んでもらいたい。しかし、近年改善されたと思っていた雨天のピッチコンディションがとんでもなさ過ぎて。長良川名物『田んぼサッカー』、略して『タッカー』は健在。ボールの行方すらわからない。久しぶりの現地観戦だった皆様は、終了までハラハラドキドキの連続だったんじゃないでしょうか？とにかく、戸惑う選手達にアクシデントがなくて良かった。ホント、良かった。

ところで、試合中に気になったのが手拍子。気がついたら、CKとか流れの中でのチャンスのさいに、なぜだか揃った感じ

で聞こえてきて、「自然発生だったらスゴイだけど、いずれにしてもダメなんじゃなかったっけ？」と。正直、『拍手』と『手拍子』に大きな差はないと思ってる。しかし、結果に対する拍手と現在進行形&未確定な場面での手拍子の間には埋めようのない溝があるように思えた。もちろん、リーグの定めたルールをご存じない方もいるだろう。今後は徹底した周知が大事になってくるんじゃないのか。試合前、試合中の場内放送やスタジアム内での立て看板、プラカードを掲げてのアピール活動。選手を支えたい、後押ししたい気持ちはわかるが、それによってクラブにペナルティが下るのは何が何でも避けなければならない。クラブに対してどれだけ寄与できるか？一人一人が考えなければならないことだと思う。(ぐん、)

●クラブのご厚意により『岐大通』の配布場所も入場ゲート内に変った(今後も変わる可能性があります)。屋台村に「白飯と梅干」という禁断のアイテムも登場した。そして何より、選手の躍動を、失点した時の悔しさを、得点した時の心の底からの盛り上がり現場で体感することが出来た。この日の長良川では、コロナ禍でギリギリの運用でありながらも「ここにこういう幸せがある」が具現化していた。リーグ、クラブ、関係者の大勢の皆さんに感謝。せつかく掴んだこの幸せを逃がしてはいけない。観戦ルールを守ろう。自戒を込めて。(吉田铸造)

【第4節】C阪 23 2-0 岐阜

●今季1回目の中3日での3連戦・2戦目。大幅なターンオーバー(入れ替え)をやるかなと思ったけど、スタメン変更は2人のみ。コンディションが大丈夫かなと思ったけど、試合は序盤から岐阜のペースで進む。攻撃の時間は岐阜の方が長く、そして何度か惜しいチャンスもつくる。あとは得点を…と思っている前半終了間際に、まさかの、そしてまたも守備ミスによる失点。今季これまでの4失点は相手に崩されたのではなく、ほぼクリアミスによる自滅的な失点ばかり。自分たちがボールを支配できてから『そのうち得点できるからいいや』みたいな油断が、決定力不足と守備の緩みを生んでないだろうか？前節は何とか引き分けられて、猛省したかと思っただのに……(溜息)。もう守備陣の猛省どころではなく、チーム全体で抜本的な改善策を講じなければならないのかもと思ってしまう。そして、この失点で主導権を相手に渡してしまう岐阜。後半も惜しいシーンはあったが、前半よりは相手に攻め込まれる場面が増え、そしてゴール前での守備の緩さから、再び得点を奪われて…(溜息)。そうすると、#10川西が下がりだしてしまい、更に攻撃の勢いがなくなり…このまま試合終了。もしも試合会場に行ってたのなら、そして大声を出すことが許されてたのなら、たぶん僕は(ブーイングはしないので)本気で怒号してたと思う。この4試合で何度も繰り返してる安易なミスを活さない限り、『J3優勝』など戯言になるということ、選手・スタッフは本気で考えてほしい。(ささたく)

●水曜Jでした。ダッシュでねぐらに戻ってきました。今季初めて、アウェイのレブユニも着ました。容易な相手とは微塵も思ってもませんが、勝たなきゃいけない相手だった。そう思うのは傲慢ですか？でも、前節の桜23の対戦相手・熊本との比較で考えてしまうとね。残念過ぎる結果、かな？

富樫のミドル。前田神のヘッド。富樫のシュートなんか、撃つた瞬間、ゴールを確信して両手を突き上げかけてましたよ。そして、イージーなミスからの失点。ま、負ける時はこんなもんでしょ。そういう日もあります。

ただ、ね。前田神の交替で高崎が出てくるように、ネームバリューと長打力でぶっ叩く試合は出来ても、0-2以上のビハインドからひっくり返す絵が見えない。まあ、見えないのはボクの未熟さゆえ、でしょうけど(笑)。大地のシュートが枠内に飛んでたらなあ。練習あるのみ、だゾ？期待してるよ！(ぐん、)